

木更津市新火葬場整備運営事業に係る経過報告について

市民環境部

君津地域4市の共同利用施設として、木更津市が事業主体となり整備を進めている木更津市新火葬場については、令和元年6月28日付けで、かずさまごころサービス株式会社と事業契約を締結し、令和4年度の供用開始に向け、事業に取り組んでいるところである。

令和元年度は、工事用道路の整備、新火葬場の基本設計及び造成設計業務に着手するとともに、住民説明会の開催や新火葬場周辺住民との情報交換会等を行ってきた。

なお、現時点における全体工程表は、【参考資料1】に示すとおりである。

1 事業の進捗状況

(1) 工事用道路の整備【参考資料2】

建設工事にあたっては、工事車両の進入道路を新たに確保する必要があることから、道路用地の取得や森林法による各種手続等を進めてきた。

現在、工事車両の進入道路の整備工事に着手しており、工事期間は、令和2年7月までの5か月間を見込んでいる。

なお、造成工事で発生した土砂は、金田西特定土地区画整理事業で再利用するため、千葉県木更津区画整理事務所と搬出時期の調整を図っている。

(2) 新火葬場の整備【参考資料3】

基本設計及び造成設計業務を進めている段階であり、毎月2回程度行われる事業者との協議において、専門家を交えたモニタリング業務を通じ、設計内容が要求水準や各種法令・基準に適合したものとなっているか、確認のうえ相互調整を図っている。

基本設計の完了後、実施設計に着手するとともに、新火葬場用地の造成工事に向け、千葉県中部林業事務所と林地開発行為に伴う連絡調整を行うこととしている。

2 地元対応

(1) 火葬場設置等計画の住民説明会等【参考資料2】

木更津市では、令和元年9月に、「木更津市墓地等の経営の許可等に関する条例」に基づく、火葬場設置等計画に係る住民説明会を3会場で開催するとともに、新火葬場周辺住民との情報交換会などを適宜実施している。

(2) 木更津市と大久保団地自治連合会との協定締結【参考資料2】

木更津市では、平成31年2月から、施設整備や運営に関する基本的な取り決めを

定めた協定の締結を目指し、大久保団地自治連合会歴代会長や大久保団地在住の市会議員等で構成され、火葬場問題を専属的に取り扱う『火葬場に関する検討会』と協議を重ねてきた。

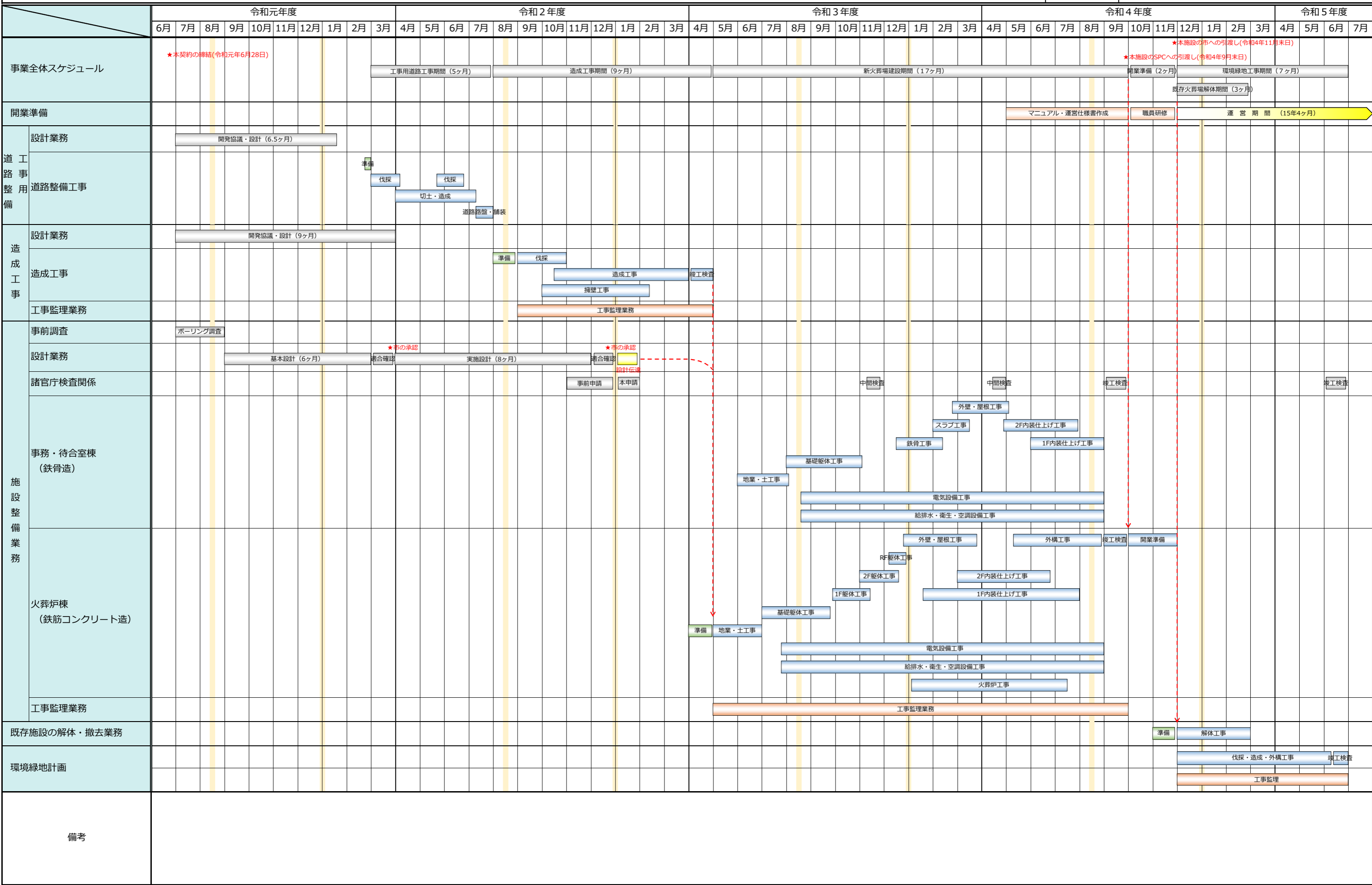
この中で、区域住民の健康保護を目的とする協定を締結することとなり、令和2年2月に双方で協定内容の合意に至ったことから、令和2年3月6日付けで「施設整備協定書」を締結した。

現在は、協定で定めた、双方による協定の履行確認及び情報交換を行うための連絡会議の設置に向けた作業を進めている。

○主な協定内容

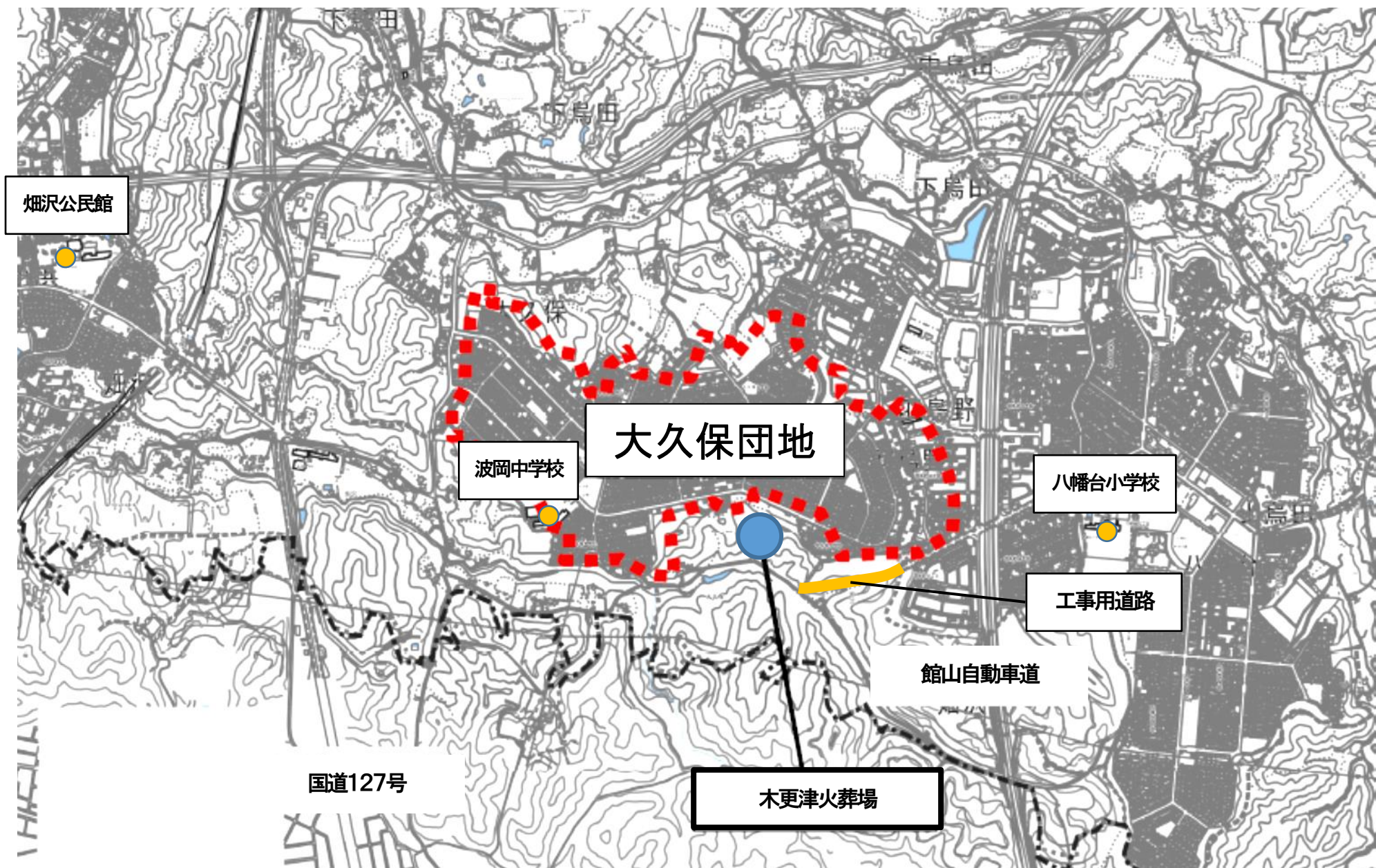
- ・ 区域の活性化及び周辺区域の生活環境や自然環境を保全することにより、区域住民の健康を保護することを目的とする。
- ・ 周辺市道3路線全線が開通した後に、施設を供用開始するように努める。
- ・ 環境保全協定値を定め、公害発生を防止する。
- ・ 大久保団地に葬儀関係車両が通行しないよう指導管理を徹底する。
- ・ 協定の有効期間を施設の供用開始後30年とする。

施設整備業務全体工程表



木更津市火葬場等位置図

参考資料 2





基本方針

本計画は、以下の方針を元に計画を進める。

01. 周辺環境や立地特性に配慮し、環境性能に優れた施設づくり

既存の豊かな緑を残しつつ、外観を周りの景観と調和させるとともに、北側の住宅地から火葬場施設が見えないよう配慮する。また、最新の技術を採用した火葬炉や省エネルギーに配慮した設備を導入するなど、環境性能に優れた施設とする。

02. 将来の火葬需要や葬儀形態に対応できる施設づくり

将来増加する火葬件数や小規模な葬儀が行える機能の導入など、利用者である市民のニーズに的確に応えられる施設とする。

03. 遺族や会葬者へ配慮した、故人の旅立ちに相応しい施設づくり

葬送行為の地域特性に配慮するとともに、死者の尊厳を重んじ、落ち着きと安らぎを感じることができる施設とする。

04. 安心して利用できる、人にやさしい施設づくり

「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）」及び「千葉県福祉のまちづくり条例」に準拠するとともに、誰もが安心して利用できるユニバーサルデザインを採用した施設とする。

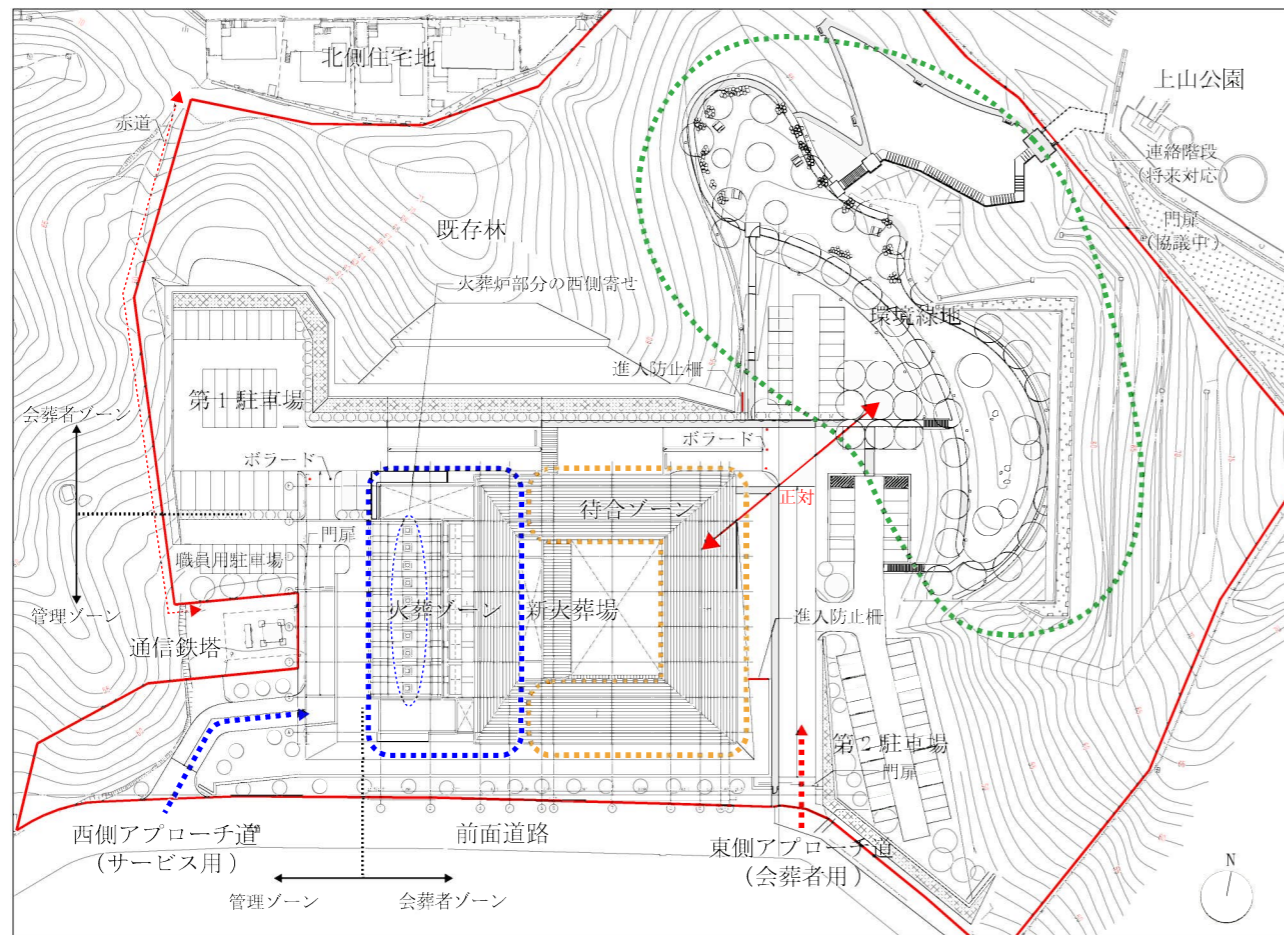
05. 災害に強い施設づくり

災害時においても、施設稼働が可能となる災害に強い施設とし、災害時のための火葬燃料・電力等の確保と備蓄などの検討を行う。

配置計画

配置ゾーニング計画

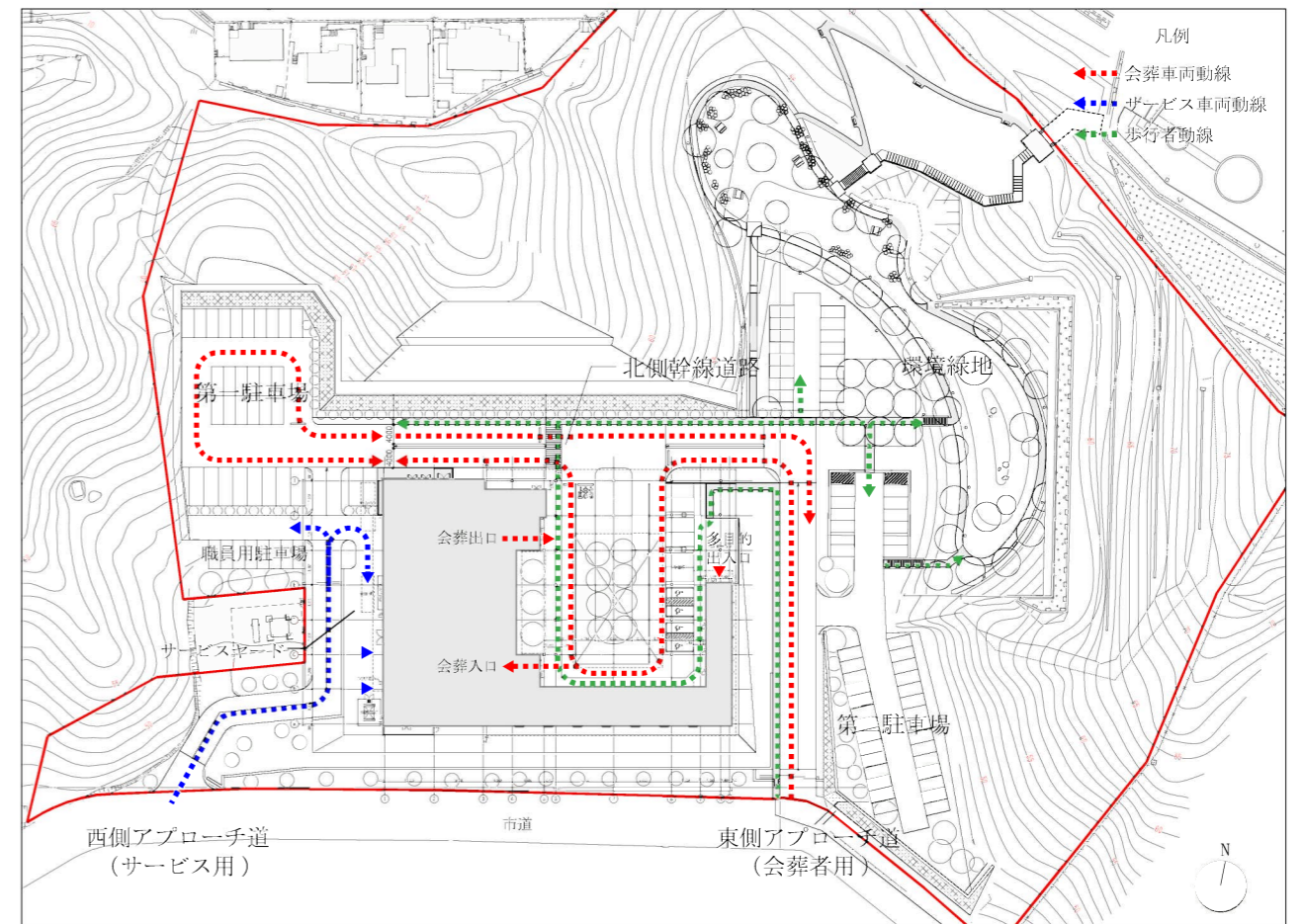
- ・前面道路の東西方面双方から直角にアプローチしやすい東側アプローチを会葬専用とし、西側アプローチ道をサービス専用として、敷地出入口から会葬ゾーンと管理ゾーンの完全な分離を実現する。
- ・北側住宅地や周辺から火葬場を意識させないために、火葬場において最も高さを必要とする火葬炉部分を北側住宅地から最も見えにくい敷地の西側に寄せ、確実に山の背後に隠せる施設ボリューム計画とする。
- ・新火葬場の待合ゾーンを環境緑地に正対して寄せるゾーニング計画とする。
- ・2階待合ゾーンに立つと目の前に環境緑地が広がる、豊かな森林環境を最大限に享受できる計画とし、周辺森林との一体感を醸成する。
- ・新火葬場の車寄せを建物で包み、霊柩車や喪服の会葬者が周辺から見えにくい計画とする。
- ・東側アプローチから見て通信鉄塔を新火葬場の背後とする配置計画とし、存在を感じさせない計画とする。
- ・通信鉄塔廻りを西側アプローチ道からのアクセス出来る敷地内開放エリアとして計画することで、火葬場運営に影響なくメンテナンスができる計画とする。また敷地内開放エリアから赤道への接続を考慮した計画とする。



S:1/1000 配置ゾーニング図

敷地内動線計画

- ・北側幹線道路を中心に、新火葬場の車寄せ→第1駐車場→第2駐車場へと流れる一筆書きの会葬車両動線を実現し、利用者にわかりやすい構内動線を構築する。
- ・北側幹線道路にはゆとりある4.0mの幅員と中央分離帯を設定し、初めて訪れる利用者が迷わず通行できる計画とする。
- ・中央の車寄せと東西の駐車場、環境緑地の散策路を直線的につなぐわかりやすい歩道環境を車路と区別して整備し、安全に移動できる徹底した歩車分離を実現する。
- ・東側アプローチに沿って敷地出入口から車寄せへ安全にアクセスできる歩道を整備する。
- ・新火葬場のメインエントランス前は周回可能な車寄せを計画し、また中庭と合わせたロータリー空間とすることで緑あふれる車寄せを実現する。



S:1/1000 敷地内動線計画図

平面計画

■ 平面計画の基本方針

- ・告別から収骨まで、各葬送の儀式が各遺族・会葬者グループごとに独立性を保ちながら進行できる利用者の心情に配慮した計画とするとともに、運営の効率性を追求した合理的な計画とする。
- ・入場から告別、火葬、待合、収骨、退場まで儀式の流れに沿った、諸室構成と動線計画とすることで、遺族・会葬者の個性を高めた計画とする。
- ・コンパクトで効率的な会葬者の動線計画とし、高齢者を始め多様な利用者が快適に過ごせる、バリアフリー、ユニバーサルデザインを取り入れた計画とする。

■ 平面構成の考え方

● 火葬ゾーン・エントランスゾーン

- ・エントランスホールの両端に入場と退場を分ける形で2つの風除室を設け、混乱の生じない案内のしやすい出入口計画とする。
- ・告別収骨室は35人規模の会葬者がゆとりをもって告別及び収骨の儀式に臨める、約75㎡/室の広さを確保する。また、告別と収骨の儀式を1室で兼用することに配慮し、各室に炉室との連絡扉を設け、各儀式に必要な備品を炉室側に収納をできる計画とする。
- ・10基の火葬炉と5室の告別収骨室を南グループと北グループに分け、各々専用の2階待合ゾーンへの縦動線を設け、動線短縮と運用効率を図る計画とする。
- ・火葬炉2基に1室となる告別収骨室形式に独立性を付与するため、壁面と同材のスライド壁を設け、隣の炉扉を隠す計画とする。また、スライド壁は炉化粧扉と共にその脇に設けられる遺影台や故人名を表示する案内モニタを隠す計画とする。

● 待合ゾーン

- ・待合室は10室とし、35名がゆったり寛げる約56㎡/室の広さを確保し、給湯室やクロック、少し横になれる畳敷を各室に備えたパッケージ型の待合室とする。
- ・北側グループの待合室9、10の間仕切りに遮音型スライディングウォールを採用し、2室一体利用が図れる計画とする。また、待合ホールに隣接する位置に計画することで、約100名規模の大規模な会葬に対応できる計画とする。
- ・中庭をコの字に囲むように計画された2階空中回廊に沿って計画し、どこに居ても施設内の位置を認識しやすく、森林を望むことのできる快適性の高い計画とする。
- ・キッズコーナーや授乳室、多目的トイレを設け、誰もが快適に過ごせる計画とする。

● 多目的ゾーン

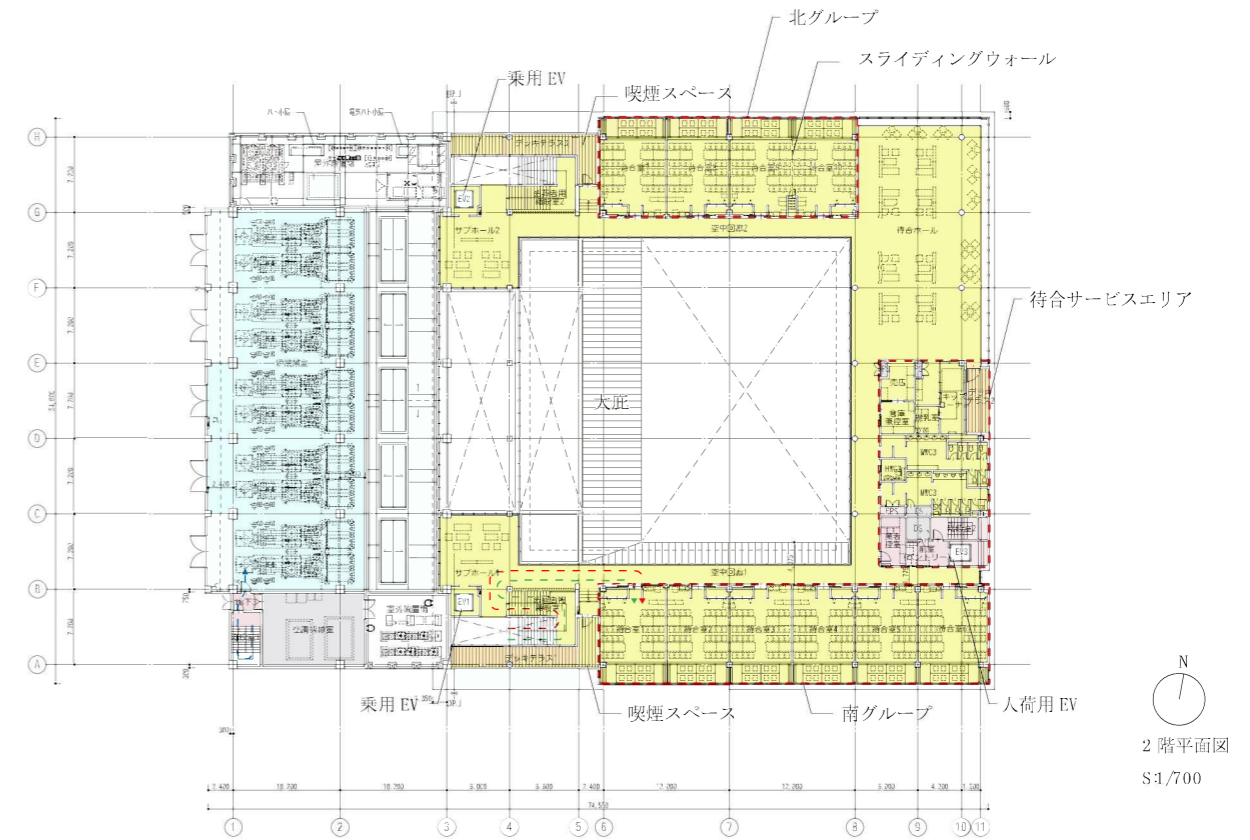
- ・中庭をはさんで火葬ゾーンの対面に位置し回廊でつながる、独立運用も可能な計画とする。
- ・多目的室と併せて、会葬者用の更衣室やトイレを中庭回廊から直接アクセスできる計画とし、多目的ゾーン利用者の利便性を向上する。
- ・多目的テラスは、会葬者が儀式から離れ環境緑地を眺めながらほっと一息つける空間で、早着会葬者の待合スペースとして、また人数の多い葬儀の際には多目的室と一体的な利用ができるフレキシブルな計画とする。

● 管理ゾーン

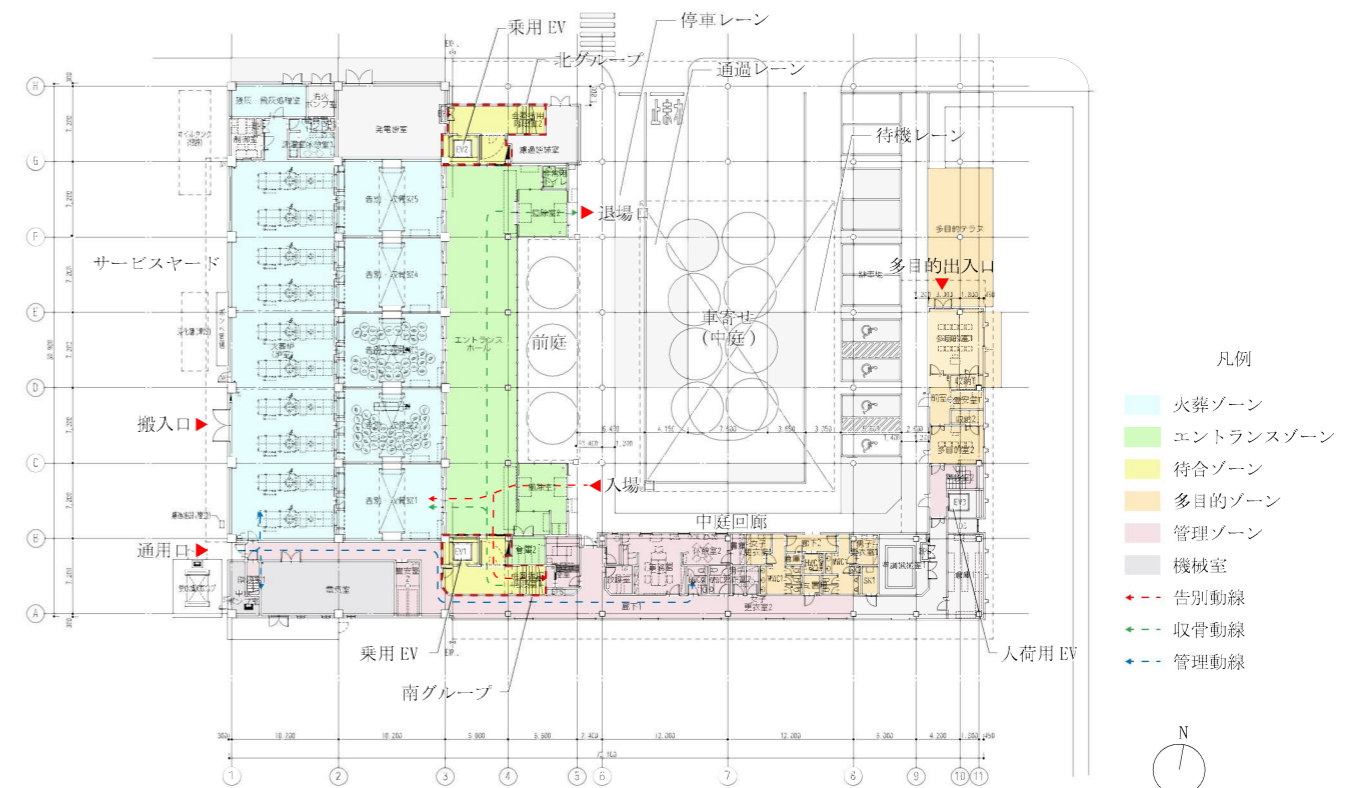
- ・サービスヤードから管理諸室や炉室等、待合サービスエリアに至る管理ゾーン内で完結する管理動線を確立する。また、管理ゾーン内で移動できるサービス動線とサービス専用の人荷用エレベーターにより、忌中払い等の仕出し運用に応える利便性の高い計画とする。
- ・1階の炉室や残灰・飛灰処理室、2階の火葬炉機械室は、サービスヤードに面して配置し、保守や点検、搬出入がしやすい計画とする。

● 車寄せ計画

- ・中庭を時計回りに周回する車寄せは、大庇や車イス使用者駐車場、僧侶やお年寄りの利用や一時サービス車両の荷捌きにも利用できる多目的駐車場を有し、各利用者が各出入口まで雨に濡れずにアクセスできる合理的な計画とする。
- ・車寄せは停車レーンと通過レーン、待機レーンを有し、混乱なく車両運用が可能な計画とする。



N
2階平面図
S1/700



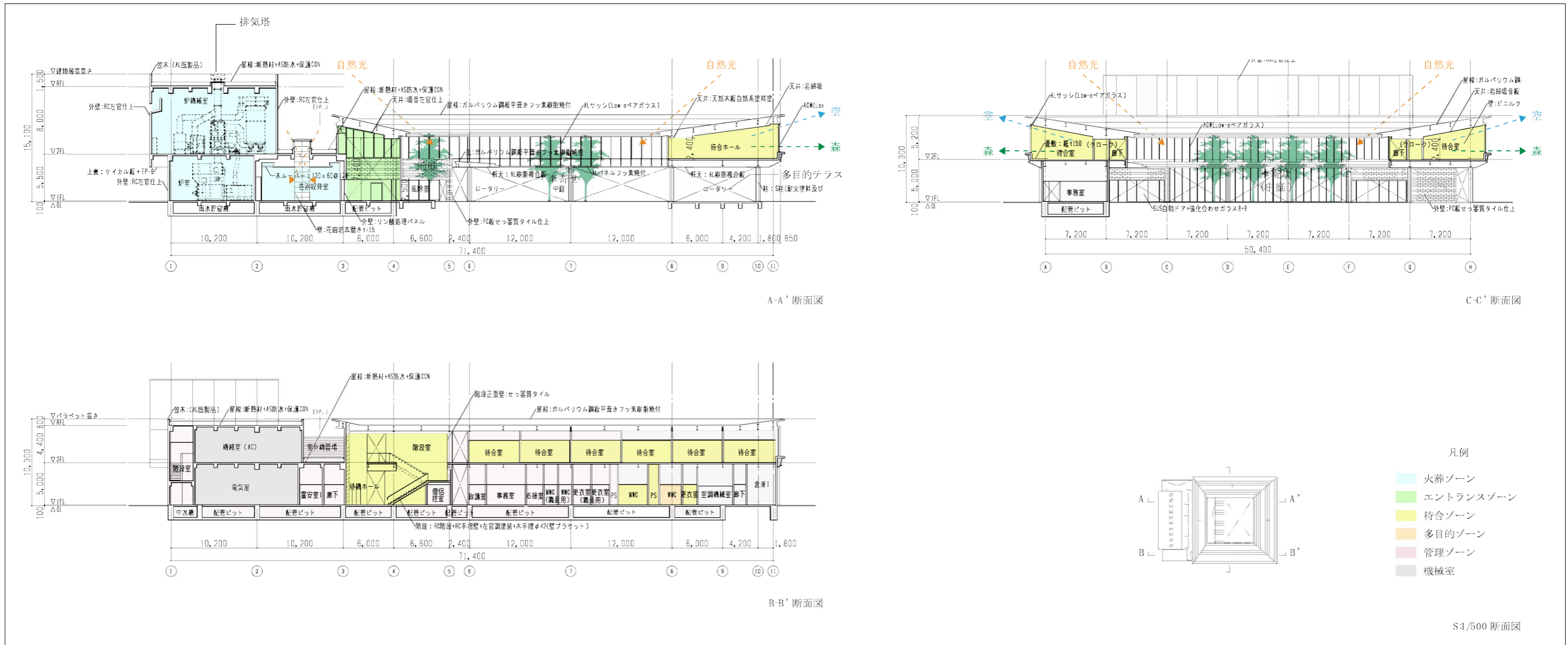
N
1階平面図
S1/700

断面計画

断面構成の考え方

- ・ 階高設定に関し、1F 炉室と告別収骨室を基準とした 5500mm とその他エリアの 5000mm を組み合わせた「合理的な計画とする。マイクロバスが寄り付き通過するエリアは 4000mm の有効高さを確保する。
 - ・ 2F は空と森に向かう屋根勾配に合わせた階高を設定する。2F の炉室機械は、機器に必要な寸法を考慮して 8000mm を確保し、その上のパラペット高さは排気塔高さに合わせ 1500mm とする。
 - ・ 会葬者利用エリアは中庭を中心とした口の字型の内側に下る勾配屋根とすることで、中庭への自然光を導き空に開かれた計画とし、中庭に面して大きく開口部を設ける見通しの良い計画とする。
- 待合空間を 2 階に配置し空と森を望める配置計画とし、エントランスホールの吹き抜け空間を介して分かりやすく 1F と接続する計画とする、

- ・ 告別収骨室やエントランスホールのハイサイドライトなど効果的に開口部を設ける計画とし、柔らかな自然光による空間演出を行う計画とする。



外装計画

外観計画の考え方

- ・1階に配置される火葬棟エリアはRC造で重厚感ある設えとし、大地に根付く安定感のある外観デザインとする。
- ・火葬棟エリアと待合棟エリア各々の外観特性を生かし、建物ボリュームの分節化を図る立面計画とし、施設の圧迫感を低減する、
- ・2階に配置される待合棟エリアは、口の字型が外観に現れる水平ラインの強調のデザインとガラス基調により伸びやかに空と森へ向かう開放感と浮遊感ある外観デザインとする。

- ・左官仕上やタイル張り、ガラスや金属パネル等素材感を感じられる外装計画とし、素材に応じて淡いアースカラーやモノトーンカラーを使い分けることで、落ち着いた格調高い色彩計画とする。
- ・屋上に設置される屋外設備機器をボリューム感を低減するルーバー型の目隠しで覆う計画とし、格調高さと施設の合理性を両立する。

